

# PETボトルリサイクルに関する検討会発表資料

平成27年度  
地球温暖化防止活動推進員表彰

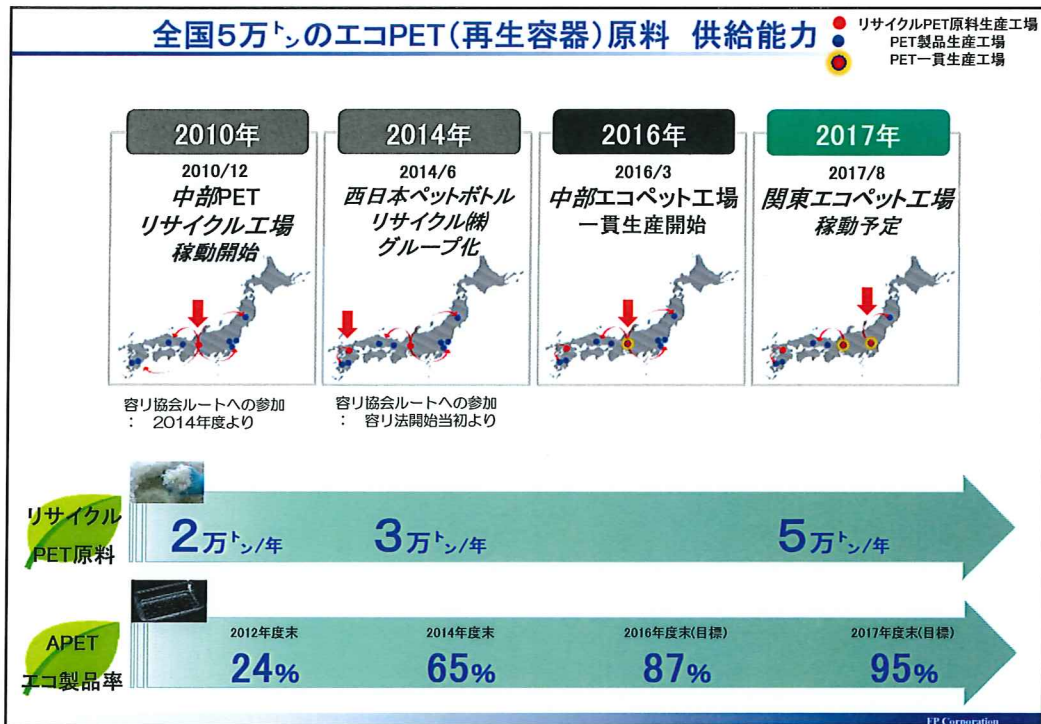


株式会社エフピコ  
リサイクル部 リサイクル資材調達課  
井上 達弘

FP Corporation

# 再商品化実施状況

FP Corporation



## 容リ制度におけるPETボトルの課題

FP Corporation

### PETボトルリサイクルにおける課題

#### 課題1：原料不足で過剰競争

- 入札価格高騰  
⇒再商品化能力・自治体委託量のミスマッチ
- 工場稼働を考えた安定的な量確保が困難  
⇒再生能力は自治体委託の約2倍
- サプライチェーンの寸断（半年サイクルでの入札制度）  
⇒サプライヤー側。クライアント側。
- 実力乖離の落札価格  
⇒稼働を考えると無理して量確保が必要。
- 再生品価格の上昇と利用魅力減  
⇒市況以上の値上がり。新規PET原料との競争力弱

FP Corporation

## PETボトルリサイクルにおける課題

### 課題2：PET樹脂価格の乱高下 ＜コスト変動に対する販売価格変動過大＞

- PET市況、見通しづらさ
  - ⇒入札時点で年間・半年を予想することが困難
  - ⇒新規PET原料の輸入。原油・為替 非常に複雑
- 再生品の価格優位さの減退
  - ⇒入札競争激化と新規原料の下落により再生品価格の魅力減

FP Corporation

## PETボトルリサイクルにおける課題

### 課題3：運用上の問題

- 「有価物」相当との規制差  
(指定法人と独自処理でダブル・スタンダード)
  - ⇒指定法人ルートに対しそれ以外(独自処理・事業系等)の「見掛け上有価物」に対しての規制が甘い
- 3ヵ月ルール(原料受入から販売完了)の矛盾
  - ⇒廃掃法の3ヵ月ルール(原料受入から処理完了)を新たな「素材産業」の再商品化事業に適用することは困難
- 自治体における指定法人/独自処理の併用
  - ⇒国の方針「円滑な引き渡し」を踏まえ制限(併用不可等)
- 自治体間差(収集量、品質)
  - ⇒収集原料の品質や収集量に自治体間の差が大きい

FP Corporation